

本庄早稲田・リサーチパークニュース 2008.8

新・専務理事 嶋根繁氏に訊く

「本庄早稲田リサーチパーク」の展開、未来、そして・・・（前編）



●略歴

早稲田大学に勤務し、演劇博物館、エクステンションセンター事務長、理工学部事務部長、教務部事務部長、社会連携推進室長を歴任。現在は本庄国際リサーチパーク研究推進機構専務理事、早稲田大学教務部本庄プロジェクト推進室長、本庄総合事務センター事務部長。

当財団は設立より6年。組織を一新し、今年度より専務理事の職に就く嶋根繁氏にその熱い想いを語っていただきました。

●財団の存在意義の見直しと組織の見直し

本財団は当初本庄地域の最先端研究展開の拠点として設置されました。その後の展開の中で、貴重な蓄積ができましたが、現在の本庄リサーチパークを改めて見つめ直すと、必ずしも今求められている水準に達していないのではないかという問題が明らかになりました。

さらに早稲田大学から見た場合に、2つの大学院、国際情報通信研究科と環境・エネルギー研究科があり、さらに高等学院、芸術・科学センターがあります。二つの大学院の背景には理工学術院があります。しかしそれぞれの潜在可能性を生かし切れていたとは言えない現実がありました。

一方で本庄市は平成22年の街開きにむかって本庄早稲田駅周辺地域を急速に整備しており、埼玉県は本庄市を県北の先端研究展開をはかる地域として位置づけています。

こうした県・市・大学・財団、四者の思いが重なり、改めて財団の役割を見直し本格的な研究拠点展開を図りたいと検討を開始したのが昨年末。そして四者で検討した結果、財団組織の変更を図り、副理事長に岡島敦子埼玉県副知事、吉田信解本庄市長を迎え、私が専務理事となり常駐、さらに事務局には埼玉県より中島規之部長、本庄市より松崎隆良部長を迎えました。

四月から3ヶ月という短い期間ですが、それぞれの成果が実感できるようになってきているように思います。

早稲田大学新プロジェクト発動！

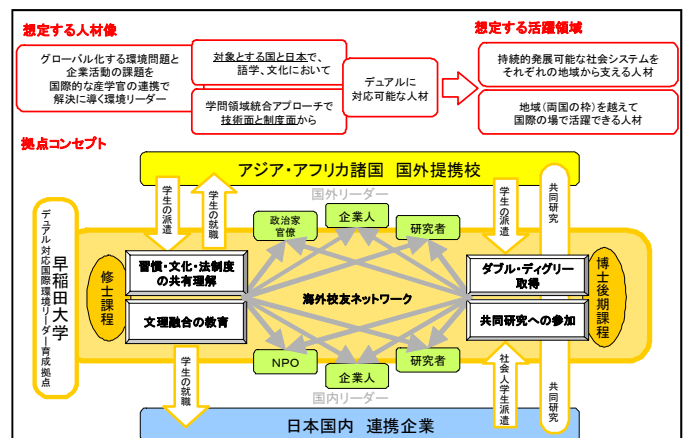
「デュアル対応国際環境リーダー育成拠点」プロジェクト

早稲田大学では国際交流の面での対応は、現在75カ国539校と学術交流協定を締結しており、特にアジア・アフリカ地域においては204校を数え、受入数は、2,435名(2007年5月1日現在)となります。さらに、本年度より概ね5年で8,000人の留学生受入を表明しており、本プロジェクトも世界に開かれた大学づくりの一環として位置づけられています。

そこで、早稲田大学は本庄地域を中心にグローバル化する環境問題と企業活動の課題を国際的な産学官の連携で解決に導く環境リーダーを育成します。

本提案の環境リーダーは主に対象とする途上国との間で、語学においても、技術面と文化、制度面からもデュアルに対応可能な人材を定義し、修士課程カリキュラムにおいては語学面の強化、学問領域統合型対応、現場・現実・現物主義の対応を旨としていて、地域の問題をふまえた演習や企業等との共同研究におけるOJT教育などに特色があります。

また、博士後期課程は留学生と日本人学生が共同研究を行う点に特色があり、ジョイント・ディグリーの授与を行うほか、継続的共同研究のための戦略的研究育成投資の制度を導



プロジェクト概念図

入する。これにより、国際的な大学アライアンスと企業の国際戦略との連動を具体的に示す事例として様々な形で波及することを期待しています。

「地域水環境再生勉強会」元小山川・小山川 魚類・水質調査 ～本庄市立藤田小、地域水環境再生勉強会による河川調査～

6月13日(金)、本庄市内を流れる元小山川、小山川で藤田小学校5、6年生の環境の授業(参加児童69名)が行われました。児童たちは胴長とライフジャケットを着用し、川に入りました。昨年4回の調査を経験した6年生が5年生に指導する姿は微笑ましく、たも網ですくうとメダカ、ザリガニ、ドジョウ、コイ、シマドジョウなどが面白いように捕れ歓声があがっていました。川によって捕れる魚の違いにも興味を示しておりました。

当日は、当財団が事務局をつとめる「地域水環境再生勉強会」の会長である早大理工学部榊原教授を始め、埼玉県環境科学国際センターの主任研究員である金澤先生など水環境や魚類の専門家に魚種や生態などを教えていただきました。児童からもたくさんの質問がとびかっておりました。この他、埼玉県県土整備事務所、本庄市の職員、近隣の企業の方などに、ご協力いただき、無事に終える事が出来ました。



マネージメントセミナー in WASEDA

第一回を開催 ゲスト講師に神田広人氏を迎えて



6月26日(木)、早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンターにて、全3回予定の「マネージメント・セミナー in WASEDA～眠れる“地域資源”を世界ブランドに!!」開催し、会場を埋めるたくさんの来場者がありました。

全三回を通じて(有)フィールド・サイド代表 田端克雄氏を迎え、さらに、各回ゲスト講師を迎える形式で、今回第1回目は(株)岩崎薬品工業 常務取締役 神田 広人氏に登場して頂きました。

第一回のテーマ「戦略的な新商品の企画開発とは」に沿って、自社製品(麺食品)を作るまで、どのような考えで製品を作るに至ったか、そのときの苦労話を実際にタグを組んで開発に取り組んでいた田端氏とご講演頂き、具体的で臨場感のある今講演となりました。終演後、参加された講演者、

企業の方、支援機関の方々と交流会を開催しました。

8月21日、第3回「域外市場を狙った事業展開へ」も予定しております。登録制・参加費無料ですので、ご来場をお待ちしております。



多国籍料理教室in早稲田の森

第一回はモンゴル料理

2005年から始まったおなじみの多国籍料理教室。本年度から本庄市との共催となりました。お蔭様で多くの本庄市民の方にご参加いただき、楽しく無事終えることができました。

今回取り上げたのは普段あまりなじみの無いモンゴル料理。講師のGITS留学生Tuulさん、Tungaaさんは、共に主婦ということもあり大変手際よく手伝ってくれました。

冬にはマイナス40度にもなる厳寒の国モンゴルでは、肉を中心としたボリュームのあるメニューが多いようです。今回揚げ餃子には牛ひき肉を使用しましたが、本来ならばマトンを、しかもひき肉ではなくナイフで肉を細かく切って使うとのこと。

そして、モンゴルでは脂身の多い肉ほど良い肉とされているので、脂肪の多い肉を使って作るようです。日本では、餃子の皮は市販のものを使用する家庭が多いようで、皮から自分で作るのを楽しくもあり、難しくもあったようでした。

皆様にたくさん食べていただこうと用意した材料の分量が多過ぎたようです。次回からはきちんと適量とし、調理の負担を軽減いたしますので、これに懲りずに是非またご参加ください。



自然体験型イベント(お米づくり)

NEC埼玉・NPO早稲田環境市民ネットワークとの協調



6月21日、財団はNEC埼玉と早稲田環境市民ネットワークと協業で自然体験型イベントを開催しました。当日は集中豪雨が懸念されましたが、幸いにも雨は小降りであり、予定通り実行となりました。田植えの前に講師の武藤様より苗の植え方、水田に住む生き物と日本の農業の現状について講演されました。

昔であれば水田にはゲンゴロウやタガメ、ドジョウなどがいたが河川の護岸工事によって数が減少してしまったこと、農業が後継者がいないことや農地の減少で本庄地域の農業が危うい状況だという内容でした。

初めての田植えで慣れない子もいましたが、講師や環境・エネルギー研究科の学生の丁寧な指導できちんと植えることができました。早く苗を植え終わった子のなかには泥んこ遊びをする子もいました。

財団はこのようなかたちで自然とふれあいお米という身近なものにふれることにより、現代人が失ってしまったものを得るきっかけを提供しています。

今後も様々なイベントを開催予定ですので、ホームページなどをご覧ください。

早稲田大学 芸術科学センターのご紹介



早稲田大学は芸術科学センターの運営組織を整備し、高度研究事業と人材育成事業を推進することを目的として、新たに体制を刷新しました。早稲田大学は皆様のご支援をいただきながら、芸術科学センターを中心とした新しい産学連携のかたちを皆様と共に創出します。

施設紹介

●撮影スタジオ

このスタジオの特性は、合成用ブルーバックを常備したデジタル映像撮影に適したスタジオです。

モーションコントロールやモーションキャプチャーを始め、多くの撮影機器を用いてのデジタル合成映像が製作されています。



●MAスタジオ

マルチチャンネルデジタルミキシングコンソール卓やデジタルオーディオワークステーション、マルチトラックレコーダー他、各種エフェクタ等から構成されており、また、アフレコ用収音室も設置されています。このことにより200インチのサウンドスクリーンと5.1サラウンド以上に対応可能な臨場感あふれる音声編集が可能です。

<施設利用・見学など問い合わせ先>

早稲田大学 芸術科学センター TEL0495-23-3107
<http://www.waseda.jp/asc/>

本庄早稲田能ついに開催!

香川靖嗣、塩津哲生、野村万作、野村萬斎…… 当代最高の演者が文化会館の舞台に登場

日時：11月1日(土)午後3時30分開場、午後4時20分開演
 場所：本庄市民文化会館
 主催：本庄市・早稲田大学
 入場料：2000円(自由席)
 ※チケット前売り開始8月10日(日)

演目

能『羽衣』香川靖嗣ほか
 狂言『二人袴』野村万作、野村萬斎ほか
 半能『石橋』塩津哲生ほか

昨年秋の『祭禮錦・能装束-山口恵の世界-』展に引き続き、本年は「本庄早稲田能」の開催です。

◆お問い合わせ

本庄市民文化会館 0495-24-2841
 早稲田大学文化企画課 03-5272-4653

財団法人本庄国際リサーチパーク研究推進機構 地域産官学研究会・地域活性化事業 助成金 事業概要

財団は、2008年5月に解散した本庄国際リサーチパーク推進協議会の事業の一部(研究会助成金、起業化支援事業助成金)を継承し、本庄地方拠点都市地域(以下「本地域」という。)において、産・学・官・市民の連携による地域社会の問題の解決や、産業の振興を通じて、本地域の活性化に向けた助成事業を実施します。

●対象者

本地域で研究開発、市場調査等の活動を行う企業、個人、団体(NPOや市民グループを含む)、研究機関

●助成金額・助成率・件数・期間

- 1)「地域研究会事業」
1件につき最大年間50万円、助成率100%、年間最大5件、最大2年間(初年度終了時に中間評価有)
- 2)「地域活性化事業」
1件につき最大年間100万円、助成率50%、年間最大5件、最大2年間(初年度終了時に中間評価有)

●選考スケジュール

募集開始：8月22日(月) 予定

応募等に関するお問い合わせは下記Webサイトまで

<http://www.howarp.or.jp/>

 ☆ **マネージメント・セミナー** ☆
 ☆ **in WASEDA 第3回** ☆
 ☆ **【第3回】** ☆
 ☆ **2008/8/21(木) 14:00~16:30** ☆
 ☆ 「域外市場を狙った事業展開へ」 ☆
 ☆ ◇講演内容(予定) ☆
 ☆ 域外市場に関する情報収集や人的ネットワーク形成の手法 ☆
 ☆ 「中小企業地域資源活用700ラム」の ☆
 ☆ 制度と事例紹介 ☆
 ☆ 講師 田端 克雄氏(グラフィックデザイナー・フィールドサイド代表)ほか ☆
 ☆ ゲスト講師有り。 ☆
 ☆ 申込方法等、詳しくは ☆
 ☆ <http://www.howarp.or.jp/>まで ☆
 ☆ *****



財団法人 本庄国際リサーチパーク研究推進機構

〒367-0035 埼玉県本庄市西富田1011

TEL: 0495-24-7455 FAX: 0495-24-7465

<http://www.howarp.or.jp/>

<http://www.ioc-waseda.jp/>